

VIRI (Vietnam Rural Industries Research and Development Institute) 訪問調査記録

[訪問日時]

2019年7月31日(火) 10:00 – 12:00

[場所]

VIRI 本部(No.35/19 Lac Trung street,Hanoi)

[先方]

Dr.Nguyen Bao Thoa (Director)、Tran Thi Thu Huong (Business Manager)、To Hai Yen (Visibility and Communication Manager)、山田邦永(Marketing Advisor, JICA volunteer)

[当方]

ジェンキンソン陽、志賀隆雄、神野芳紀、田中直、橋本裕光、堀尾孝子

[内容]

○団体概要

1997年に、農村産業を、弱い立場の人々や女性の立場に立ち、環境調和的な形で振興することにより、持続可能な開発に資することをめざして設立された。科学技術省のライセンスを得て活動しているので、NGOというよりも研究機関といえる。現在20名のフルタイムスタッフが、各地の協力者・専門家と協力しながら活動している。本部の他、4つの州に支部があり、ハノイ市内にアウトレットやスタジオもある。

○活動

農村各地の資源と伝統技術を生かしながらも、原料の調達、前処理、加工、包装、販売・広報・流通のあらゆる面で、新しい技術や革新的要素を積極的に取り入れ、住民たちの能力を高め、環境とも調和的で、かつ持続的に収益が上がるような産業を育てることに取り組んでいる。これまでに、ベトナム国内で217の生産者団体を支援してきた。

・コーヒー

ダクラク(Dak Lak)州の Eatu 地区における、生産協同組合の形成、フェアトレード基準を遵守したコーヒー豆(ロブスタ種)の生産、品質向上、販路の確保などを支援した。会員の多くは、Ede 族の人々である。その結果、同組合はフェアトレード団体としての認証を得ることになり、売上を伸ばしている。

・オレンジ

Nge An 州において、以前は、生のオレンジのみが製品で、季節により価格変動が激しく、また、気候変動などにより、正常に生育しないで落ちてしまう「失敗したオレンジ」が増え、そのような果実は川に廃棄されて、環境を汚染していた。このため、果樹の手入れとともに、オレンジから、濃縮ジュース、ワイン、ロウソク、エッセンシャルオイル、石鹸などを生産して付加価値を上げる事業に取り組み、多くの製品化に成功した。オレンジ生産地域は、ツーリズムの対象地域ともなっている。

・茶

ベトナム北西部の中国国境にも近い Ta Xua 地域における茶の生産を支援。この茶は、2-3m にもなる樹木の葉を原料としており、血中コレステロールの低下、体脂肪低下などに効果のあるカテキンを多く含んでいる。

他に、蜂蜜の生産(水分を飛ばして、より濃度が高い製品とし、付加価値を高める)、ココアパウダーの生産(MAROU ブランドのチョコレートの原料となる)、クズの生産、棗の生産(適度な水分にまで乾燥させる技術)、壁から染み出した水分が蒸発し、その気化熱で中の食物を冷やす機能を持った陶器、蜜蝋からのろうそくの生産等を行っている団体に対する支援活動の紹介があった。

(ディスカッション)

Q.住民が主体的に参加する事業とするために、どのようにふうがなされているか

A.まず、地方政府と話をし、その地方のどのような資源が活用できるか話し、その後、コミュニティの住民と話し合うが、その際、まず住民から信頼されている村の長老に会い、事業についての理解・支援を得るようにしている。村人には、自分たちの事業であり、製品であるという意識を持ってもらうようにしている。

(APEX の排水処理事業について)

Q.この技術は工場排水にも適用できるのか。(VIRI)

A.有機性排水であれば可能である。但し、嫌気性処理部分も含めて、排水の性状に合わせて設計する必要がある。(APEX)

・近年、インダストリー・パークがふえており、メディアで紹介すれば、ニーズが出てくるのではないか。(VIRI)

(感想)

・それぞれの地域の資源や伝統技術を生かしながら、専門性のある人の支援を得て、そこに何等か新しい技術やマーケティングのノウハウを導入し、住民の収入向上や能力向

上をはかるという手法と理解した。実践的・実務的でビジネスとしても成立し、住民の主体的参加も確保されており、有意義な活動をしていると感じた。(田中)

- ・プロジェクト毎に地元の人々を雇用し終了後も継続的に活動ができる環境を整えたり、製品販売時も VIRI の名前はださずにその土地の人々のものとするスタンスが、エンパワメントを促進しており素晴らしいと感じた。(ジェンキンソン)
- ・地元のコミュニティーに根差して、身の文の活動をしている。自分達の提案しているプロジェクトの現状を理解し、問題点も認識している印象を受けた。活動が商業ベースまで行っており、提案が具体的で、アンテナショップに製品も出しており、今後はマーケティングを強化すれば、収益も期待できそうな感じがする。(志賀)
- ・現実に役に立つ技術支援をしているように感じた。(シンプルだけど、役立つ技術。地域の状態に適した技術。大量生産しない。) まさに適正技術であり、日本でも村おこしに苦勞している過疎地区の参考になるのではないかと思う。対応してくれたマネージャーやスタッフの方々が現地の状況を具体的に把握しており、熱い思いで語り、若い人が多く、生き生きしていた。組織的にも科学技術省のもと活動し、20年以上の実績を持ち、JICA とも共同のプロジェクトを持ち、国内に数カ所事務所を持ち、製品テスト機能もあり、年間数千万円の資金を集め、かなりしっかりした組織であるようだ。具体的にどのようなスタッフを技術養成して各プロジェクトを推進しているのか大変興味深い。(各プロジェクトは1年や2年で終わるものではない。地域に張り付き、継続する運営体制が特に興味深い)(神野)
- ・ベトナム国内の生産者団体を支援し、20年間で50製品を開発してきた実績があり、生産～販売まで黒子としてきめ細かく推進するやりかたはすごいと思った。次の10年で食品価値の向上をはかるため、マーケティング力の強化を目標にしている。特にコーヒーは、ベトナムが世界第2位の生産量を持つ強みを活かし、SDGS の考え方をうまく使ってフェアトレード(労働に見合った妥当な価格での販売)を推進している。価格交渉力を持ちにくい農業産品での技術支援の形として面白いと思う。(橋本)
- ・1) 農村産業の技術支援のみだけでなく、サプライチェーン全般にも取り組んでいる点がとても素晴らしいと思います。
2) Dr.Nguyen が「これらは私たち(VIRI)のプロジェクトではなく、彼ら(生産者)のプロジェクト」。主体はあくまでも農村のコミュニティーにあることを述べていたことが印象に残りました。
3) 事務所での説明では出てこなかったのですが、ホームページにベトナムにおける

農村女性へのエンパワメントと児童労働の防止と削減に向けて国への働きかけをしているそうです。技術支援だけでは社会は改善できないことを VIRI から学びました。
(堀尾)



VIRI での打合せ



参加者からの質問



ベトナムアップルのドライフルーツ



捨てられていたオレンジの皮からつくった
エッセンシャルオイル



スタッフのみなさんと



事務所 1 階にある展示スペース